

LA港、7月は6%減の96万TEU

米国西岸のロサンゼルス（LA）港の7月のコンテナ取扱量は前年同月比5.8%減の96万464TEUだった。昨年7月は100万TEUを上回るなど高水準だったため、今年は減少したもの、7月実績としては過去2番目の水準となった。過去5年平均との比較でも7.5%増となった。ロサンゼルス市港湾局は、8月のコンテナ取扱量も90万TEU以上になると予想しており、高水準を維持する見通しだ。

ロサンゼルス市港湾局のジーン・セロカ局長は18日のメディアブリーフィングで、「6月にコンテナ取扱量が100万TEUを超え、7月も再びその水準に迫る実績となった。変化し続け

る貿易環境の中で、企業は貨物を動かし続けている。底堅い個人消費も輸入量を歴史的な高水準にしている一因となっている」と説明した。今後の見通しについては、「全米小売業協会は8月の輸入が好調で、その後年末にかけて徐々に減速すると予測しているが、私たちが予想している状況と一致している。例年であればシーズン後半に到着する貨物の一部が既に輸送されているが、8月も引き続き好調な月になると予想している。今年後半に向けて、個人消費の動向が依然として最も重要な変動要因となる」と述べた。

また足元ではパナマ運河の水位低

下が懸念されており、今後の状況次第ではロサンゼルス港を含む西岸港への貨物シフトが起こる可能性も指摘した。ロサンゼルス港として、増加する貨物需要への対応を進めていく方針だ。

7月のコンテナ取扱量の内訳をみると、実入り輸出が8.0%減の11万1775TEU、実入り輸入が8.1%減の49万9552TEU、空コンテナが1.5%減の34万9137TEUだった。

1～7月累計のコンテナ取扱量は前年同期比1.8%増の608万3067TEUとなった。実入り輸出は1.8%減の82万6582TEU、実入り輸入は2.7%増の317万5443TEUとなった。